

園長だより

No.30 R2. 12. 1 (Mon)

朝の自由遊びでの光景で、ふと思った事が...

もも組の子数人とふじ組の子、そして先生で鬼ごっこをしていました。

よ～いどん～で、先生(鬼)から逃げるその時に、ちょっぴりこの頃
登園にアガっているもも組の女の子が両手を上げて抱っこをせかんだんです。
するとその子とごく自然に先生は受け入れ、ギョッと抱っこをし、鬼ごっこが
スタートしたんです。客観的に、先生、走り辛いかな...なんて思い見守って
いると、ま～その女の子の嬉しそうなこと、^{抱っこされての}_{鬼ごっこが}若干、不安定な感じ
でしたが、逆にそれが少しスリル感があったようで楽しいらしく、先生に抱っこ
されつつ、守られつつの状況に大満足で、満面の笑顔をを見せてくれて
いました。

考えてみれば、人生の中で「抱っこ～」を要求してくれる時期って短い
ものですよね。生まれて僅かの年で、幼稚園という社会・集団に身を
置いて頑張っているんですけど、行きたくない気持ち、甘えたい時期だって
あるはずです。そんな想いを抱っこというスキンシップで要求してくれ、それに
対して喜んで身を預けてくれるだけでも有難いな～と思うんです。そしてその想いを
受けとって貰った経験が自分は愛されているんだ～という安心感、心の安定に
なり、やがてゆるぎない自己肯定感・生きる力として育まれていくと思います。
その子の想いを全力全身で常に受けとめてくれている先生達にも
感謝だな～と、心から手を合わせつつ、抱っこして必死に走る先生と、

 されている子のとびっきりの愛らしい笑顔を嬉しく見守りました。

